阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業　新潟県

「阿賀の宝もん」発掘記☆

aga-no-takaramon hakkutsu ki

vol.1
2010年9～10月号

「真の地域づくり」につながる活動レポートを創刊

新潟水俣病の発生を境に失われていった流域の「人と人の絆」や「人と自然の関係」の紡ぎ直しを目指して始まった「阿賀野川え～とこだプロジェクト」（FM事業）。これまで、本当に意味のある地域づくりを進めていこうと、地元を始め様々な方々の協力を得つつも、ユニークな試みや多種多様な活動を、コアメンバーを中心に考えに考え抜いて実践してきました。

「紡ぎ直しの実現のために本当に効果的な活動とは？」「今まで関係を持てなかった人や無関心だった人と新たな関係をつくりあげていくには？」など、毎晩遅くまで真剣に話し合い、現場に足を運んで関係づくりにいそしんだ日々も数知れず…。だからこそ、FM事業の試行錯誤の軌跡には、真の地域づくりにつながる知恵やヒントが少なからず埋もれていると実感しています。

同じ志を持つ人々のほんの少しでもお役にでも立てればと、今後のFM事業の展開の中でも、特に「キラリと光る」活動を記録に残しておくために、本レポートを創刊しました。

（※2～3ヶ月に1回発行予定）

鹿瀬の人々をめぐる、冨永さんの旅

個人史から浮かび上がる鹿瀬地域の変遷を求めて

卒論調査の学生とFM事業が協力し合って、鹿瀬地域の人々との交流開始

冨永美香さんは新潟大学人文学部の学生で社会学を専攻。FM事業との出会いは、昨年8月の「夏あがセミナー09」（立教・立正大学共催）への参加がきっかけでした。

参加者の中では珍しく「鹿瀬の人々がどう感じているか」に関心を抱き、「鹿瀬と新潟水俣病」を卒業論文のテーマに選ぶことに決めたそうです。

以降、FM事業に様々な場面で協力してくれるようになり、今年2月には、鹿瀬工場の敷地の地主や元社員の方々との口バダン！にも参加しました。

今年9月に入り、卒論調査を本格的に開始するため、FM事務局へ相談。

FM側も鹿瀬の人々と個別に交流するきっかけを探していたので、お互いに協力し合って鹿瀬地域への訪問を実施することとなり、9月末から開始しました。

今号の注目！

●お借りできた写真資料の数々

●写真下3点：冨永さん訪問の様子

聞き取り訪問レポート

■9月25日（土）
○元昭和電工社員のAさん宅を訪問。
○99年契約の工場敷地の地主Bさん宅を訪問。

■10月23日（土）
○Bさん宅を訪問。

■10月24日（日）
○Aさん宅を訪問。鹿瀬工場タイムスや社員時代の写真をお借りする。

■10月26日（火）
○昭電で働いた経験のあるCさん宅を訪問。

■10月30日（土）
○Aさん宅を訪問。奥さんを中心に聞取り。写真をお借りする。

■10月31日（日）
○Cさんを訪問。

聞き取りに際して…

●冨永さんは、卒論調査の実施に当たり「ライフヒストリー」の手法を用いて、調査対象である地域の方々から、それぞれの人生の聞き取りを行いました。その結果をもとに、鹿瀬地域の移り変わりの分析を試みます。

●様々なおもてなしを…

●FM事業では、発掘資料の整備状況を説明し、その活用事例の1つである映像作品『ハーモニカ長屋から眺めた風景～写真で綴る鹿瀬・昭和電工・阿賀野川』をご覧いただいた上で、皆さんがお持ちの様々な資料の提供をお願いしました。

●鹿瀬工場タイムスをお借りすることができました！

元昭電社員の方から、鹿瀬工場タイムスをお借りすることができました。ほぼ全ての号が揃っており、大変貴重な資料と言えます。本当にありがとうございました！

現場に出向く、関係づくりを行う。地道な作業こそ、事業を前へ進める。

冨永さんの聞き取りに帯同して改めて気づかされた視点を事務局がレポートします！

本当の現場主義

FM事業は「新潟水俣病に向き合って、乗り越える地域づくり」を目指しています。その目的に少しでも近づくためには、地域の方々と新潟水俣病について語り合える関係づくりが避けて通れません。

そうした「本当の現場主義」が、これまでの流域では皆無に近い状況でした。FM事業はその状況に風穴を開けたくて、ロバダン！等を通じた関係づくりを、鹿瀬地域を始め流域で展開した訳ですが、それに付随してFM事業全体も明らかに前進しました。

地道な関係づくり

ところが、今年度に入ると現場に出向く回数が極端に減って、FM事業全体の進展も滞りがちでした。今回、冨永さんの求めに応じて現場巡りを再開すると、やはり収穫があり次のステップに進める契機が掴めました。

なお、今回、これまでお断りされていた方にもお会いでき、大変貴重な資料までお借りできました。そうした関係が築けた背景には、沖田信悦さんや里村洋子さん、渡部文彦さんによる親身な働きかけがあったことを申し添えます。

聞取り結果は次号で紹介！

阿賀野川え～とこだより 編集記

第３号が 11 月に発行！　見どころ、読みどころは…？

- 今号の特集は「阿賀野川え～とこだ!環境学習」。基本理念などを紹介。
- 失われた絆の回復を目指す FM 事業が、今、なぜ環境学習を行うのか？
- 新潟水俣病を乗り越えることで、流域住民が手に入れられるものとは？
- そのほか、紙芝居「阿賀野川物語」や映像作品の紹介、連載コラムの告知など。

□ 阿賀野川え～とこだよりワーキングチーム 開催レポート

●第１回：9 月 10 日（金）
→ 環境基本理念の勉強会

●第２回：9 月 15 日（水）
→ 基本的な構成案の検討

●第３回 10 月 27 日（水）
→ 事務局制作データを校正

ロバダン！開催レポート

■5月22日(土)
○NPO法人新潟水辺の会の皆さんと開催

■6月12日(土)
○五泉市の川漁関係者の会の皆さんと開催

■7月28日(水)
○NPO法人ねっとわーく福島潟の皆さんと開催

■8月26日(木)
○津島屋地区（新潟市東区）の皆さんと開催

■8月31日(火)
○津島屋地区（新潟市東区）の皆さんと開催

■10月19日(火)
○巣本地区（五泉市）の農家の皆さんと開催

●写真：五泉巣本ロバダン。「阿賀野川ブランド」と新潟水俣病について話し合った。

阿賀野川え～とこだプロジェクトとは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」（略称 FM 事業）。
阿賀野川流域の各地域がかつて発生した新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクト。

編集後記

多忙な日々に迫る締切の数々、目の前にたまる書類の山…本当はこんなレポートを作っている暇などない！とぼやきつつ、そんな書類や記録の海から、過去のキラリと光る活動の発掘にいそしむ。

vol.1　2010 年 9～10 月号
発　　行：新潟県（2011 年 1 月 7 日）
企画編集：阿賀野川え～とこだプロジェクト
●事務局/〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1
TEL&FAX：0250-68-5424
E-mail：aganogawa@niigata.email.ne.jp
URL：http://www.aganogawa.info/

●写真：麒麟山の水鏡（一部）